



## Report

## ヤングアメリカンズ with 第一学院高校 外国人キャストと全国から集まった 約200名の生徒・卒業生による実演

9月17日(火)～9月19日(木)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて「ヤングアメリカンズ with 第一学院高校」が行われた。

### 一人ひとりが輝ける舞台

参加した生徒たちは、音楽公演と教育活動を軸に活動する非営利活動団体「ヤングアメリカンズ」の外国人キャストと共に歌とダンスを学ぶワークショップに参加し、約1時間のショーを3日間で作上げる。最終日となった19日には、参加者全員で完成させたショーを実演した。

本番は17時に開演。今回のショーでは総勢約200名の生徒たちが舞台上立ち、歌とダンスに3日間で学んだ成果を披露した。

ショーでは一人ひとりのソロパフォーマンスの時間が設けられた。それぞれがダンスや歌、あるいはどちらも合わせて、外国人キャストたちと共に演技を披露した。生徒たちのソロパフォーマンスでの歌の歌詞はすべて英語。舞台上でキャストたちに支えられながらパフォーマンスを披露する様子が見受けられた。

ショーの途中にはワークショップを通して考えた、自分の人生を変えてくれた人・尊敬している人についてサプライズで発表された。発表を行った生徒の一人はイベントで出会ったキャストの一人を挙げ、「私は練習中にステージ

で歌うのは嫌だと思っていたのですが、マギーちゃんが“できる大丈夫”と言い続けてくれたおかげで人前でも歌えるようになりました。マギーちゃんの周りにはみんなが笑顔で、それはマギーちゃんがいつも笑っているからです。私も周りのひとを笑顔にできる人になりたいと思いました。私の人生を変えてくれた大切な友達です」と、今回の出会いを通しての想いを発表した。

ショーの最後は全員が舞台上に集合。盛大な音楽と共にフィナーレを迎えた。素晴らしい実演を称え、終了後は会場から大きな拍手が送られた。



ワークショップを通じてコミュニケーションを学ぶ



外国人キャストと作る舞台



英語の歌はキャストがサポート

### 自ら考え、行動する勇気

1時間を超えるショーを終えて、関係者各位から生徒たちに向けてメッセージが送られた。実行委員長の山口さんは「2日前に来たときは、ここまでできると思っていません。キャンパスに帰ってから生活のなかでいろいろ経験していきますが、そのときに背中を押してくれるのは今回の経験です。一步踏み出して、自ら考え、実行したことを忘れないでください。みなさんがこれからどんどん成長することを期待しています」と述べた。

また公演の最後には、関係者各位へ向けられたお礼のメッセージ動画が送られた。代表生徒2名が歌を披露し、スライドショーではワークショップでの様子を写した写真とメッセージが放映された。会場は大きな感動に包まれ、3日間にわたるイベントは幕を閉じた。



ソロパフォーマンスの様子



「協力を大切さを学びました」と話す大浦さん



関係者へお礼のメッセージが送られた



ジーニー役を務めた川添くん